

名古屋市立女短大 高橋 春子
愛知大短大 岡 通子
鶯谷女高 ○和田恵美子

1. 被服デザインにおける美の追求は審美的な美の追求であると同時に人間の生活に適合した美であることも必要と思われる。そこで下肢の動作に伴う皮膚表面の伸縮を人体計測及び写真撮影により分析し、機能性を満足する形態美の追求を試みた。更に計測結果にもとずいてスラックス等の被服構成への応用も試みた。

2. 実験年月日 昭和42年10月～昭和44年8月

被験者 名古屋市立女子短大学生
鶯谷女子高校生徒

方法 全体的な傾向を予備計測したのち下肢皮膚面を長径、周径とも各8面分割し、脚を前方角に 0° , 30° , 60° , 90° と動作させながら周径、長径、幅径、厚径の変化を分析した。更に計測結果により皮膚面の運動量を考慮して、スラックスの製図をし、試着実験により動作の限界線を求めた。

3. 下肢を前方角に動作させた結果、足を前方角にあげるに伴って長径では前中心で胴囲より腰囲への寸法が短縮し、後中心では腰囲より大腿囲への寸法が伸張し、最大14cmという結果を、周径では胴囲がやや太くなり、腰囲が細くなるという結果をえた。以上の計測によりえた伸び寸法をスラックスに応用してみた。